



湾岸・アラビア半島地域ニュース

オマーン：2006年のオマーンでの銀行部門の実績 (2月17日付現地紙)

オマーン中央銀行ザッジャーリ総裁の発言：

1. 湾岸地域において現地通貨の固定相場制を改める動きがある。しかし、オマーンでは、現行の米ドル連動型固定相場制を改める計画はなく、現在のレートで固定相場制を維持する。
2. 米ドルの為替レートはユーロ及び日本円に対して大きく変動しているが、米ドルは世界の主要通貨であることには変わりなく、オマーン経済が米ドルで価格決定が行われる石油に依存している限り、当国通貨であるオマーン・リヤルを米ドルに固定したほうが有利だと考える。
3. (最近、国内のインフレ率が高まっているとの指摘に対し) インフレ率が高まっても、金利は安定している。預金金利は2年前の1%に比べて、現在は4-5%とむしろ有利になっている。昨年11月末までのインフレ成長率は3.1%で、貸付金利とほぼ同一である。
4. 2月9日には、バンク・オブ・ベイルート銀行がマスカットに支店を開設した。カタール・ナショナル・バンクのマスカット支店も開設が計画されている。更に、間もなくソハール・バンクがオマーンの新たな市中銀行として正式オペレーションを開始する。新たな銀行が開店することで、市場競争が高まり、貸付金利は益々低下するであろう。
5. 昨年の銀行分野利益は暫定値で158百万リヤル(約491億円)に上り、対前年成長率28.2%を達成した。昨年のオマーンのマクロ経済は、石油価格の高騰を受け、一概に良好だった。
6. オマーン国内に市中銀行が14行ある。このうちの5行は現地法人の銀行で、残る9行は外国銀行の支店である。国内には、これら銀行の支店330件以上開業しており、総資本額は前年比20.5%増の46.9億リヤル(約1兆4,586億円)、総資産額は前年比27.9%増の72億リヤル(約2兆2,392億円)、預金高合計は前年比24.2%増の46.7億リヤル(約1兆4,534億円)である。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799